

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会  
杵島農業振興センター

「稲作情報（第6号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第6号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R5 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R5 (hr)	平年比 (%)
5月	1	17.6	17.5	-0.1	23.8	23.9	0.1	12.0	11.2	-0.8	27.2	13.5	50	30.9	33.3	108
	2	18.3	17.2	-1.1	24.5	22.9	-1.6	12.8	12.0	-0.8	29.3	111.0	379	30.5	30.7	101
	3	18.8	18.8	0.0	25.0	25.1	0.1	13.3	13.8	0.5	29.9	24.5	82	30.5	38.7	127
	4	19.5	20.4	0.9	25.7	25.8	0.1	14.0	16.3	2.3	25.1	25.0	100	30.7	25.3	82
	5	20.2	19.9	-0.3	26.5	26.6	0.1	14.7	13.9	-0.8	19.6	0.0	0	30.6	38.9	127
	6	20.9	23.5	2.6	27.1	28.5	1.4	15.6	19.7	4.1	22.6	77.5	343	34.5	16.6	48

○5月6半旬の平均気温は、平年に比べて2.6℃ほど高く推移し、まとまった雨が降ったことで降水量は平年比343となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：6月4日）

項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	主 稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ	本 年 値	60.8	725	11.8	45.4	・草丈は平年より高く、茎数は多い。 ・主稈出葉数は平年より0.3枚多い。 ・葉色は平年より濃い。 ・幼穂長1mm程度
	平 年 値	57.3	644	11.5	40.1	
	平年比(差)	106	113	+0.3	+5.3	

※ 平年値は、H25～R4年度の平均値、耕種概要は稲作情報N01参照

3. 今後の管理

(1) 水管理

- 「コシヒカリ」は幼穂形成期をむかえている。  
幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期であるが、湛水を長く行くと根を傷める場合もあるので、引き続き間断灌水を行う。

(2) 肥培管理

- 情報田の生育状況から判断すると、出穂前26日頃と推定される。
- 穂肥施用の目安は、幼穂長15mmの時（出穂前18日頃）に群落葉色が3.3～3.7程度（36.0～39.5）まで低下したら、ゴールド有機50を10kg/10a施用する。  
必ず穂肥診断を行い、幼穂長と葉色の状況を確認し下記の葉色診断基準を参考にする。  
ただし、いもちの病斑が上位3葉以内にある圃場では、穂肥で窒素濃度が高まり降雨が続くと、「いもち病」の好適発生条件となるため、穂肥施用量は減ずる。

【表1】 コシヒカリの出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	26	23	20	18	15	12
幼穂形成始期からの日数	0日	0～3日	3～6日	6～8日	8～11日	11～14日
幼穂長(mm)	1mm	1～3mm	8～12mm	15～20mm	25～30mm	30mm以上
草丈(cm)	～72cm	～75cm	～78cm	～80cm	～83cm	～
穂肥の施用時期				↔		

【表2】 穂肥診断基準

	葉色	葉色板		SPAD (値)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	施用量 〈ゴールド有機50〉
		群落	単葉				
穂肥 施用時	淡い	3.0以下	3.5以下	34.0以下	2	75まで	15kg/10a
		3.0~3.3	3.5~3.8	34.0~36.0	5	78まで	
	標準	3.3~3.7	3.8~4.2	36.0~39.5	15	80まで	10kg/10a
	濃い	3.7以上	4.2以上	39.5以上	—	80以上	施用しない!

例) 穂肥施用時期の葉色 (SPAD) が 36.0~39.5、草丈が 80cm 以下であれば、  
ゴールド有機50を10kg/10a施用する。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
  - ② 葉色 (群落・SPAD 値) を測る。
  - ③ 上記①②の測定値を「穂肥診断基準」に当てはめ、施用量を確認する。
  - ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下 (3.5以下)」になってからである。

(3) 病虫害防除

① 葉いもち病

- ・ 補植用の『置き苗』は、葉いもち病の発生源になるため、  
すぐに除去する。

② 斑点米カメムシ

- ・ 斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を  
水稻の出穂15日前 (6月中旬) までに終わらせる。  
特に斑点米カメムシは、イネ科雑草を好むことから  
圃場内に発生しているヒエ等の雑草も併せて行う。

※畦畔を100m歩いて斑点米カメムシが3頭いたら、  
要注意である。



エノコログサやヒエが多発している  
畦畔はカメムシの住処になっている



クモヘリカメムシ

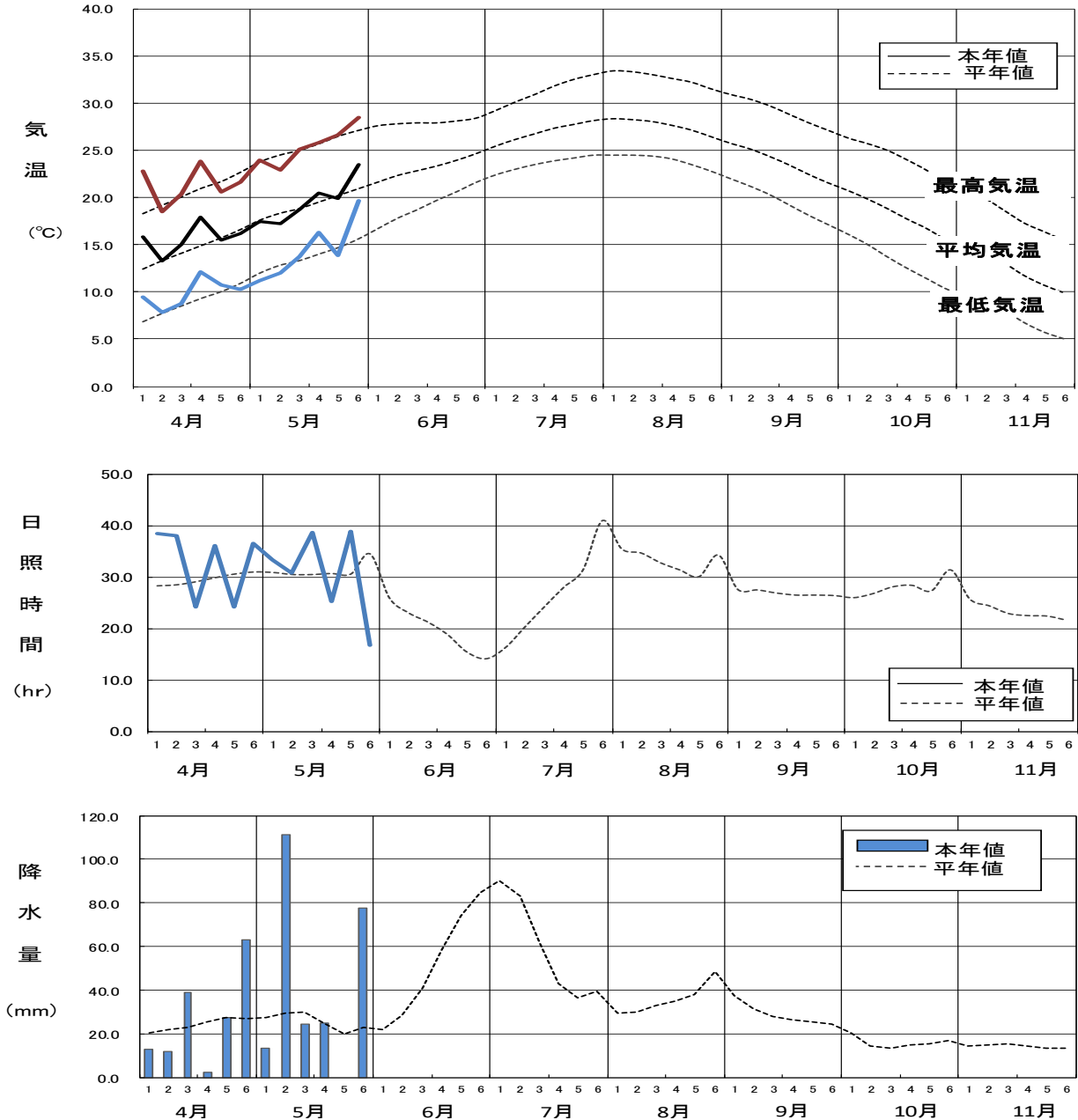


ホソハリカメムシ

#### 4. 普通期水稲の育苗管理

- 本年は、育苗期間が気温が高く推移したことで、被覆資材の除去が遅れたところでは苗丈が伸長し、軟弱徒長ぎみの苗となっている。特に夢しずくは露棚ができるような、うっぺいした状態の苗では、いもち病斑を確認している。  
今後の天候次第では、他の品種でも「いもち病」の発生が懸念されるので、発生状態が甚だしい場合は、薬剤防除による対応を行う。
- 麦わらすき込みを行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、移植前日までに窒素成分で0.5g～1g/箱の弁当肥を施用する。

令和5年産 水稲作付期間気象図  
アメダス観測値(白石)



月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R5 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R5 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R5 (hr)	平年比 (%)
4月	14.5	15.6	1.1	20.5	21.3	0.8	8.8	9.9	1.1	145	157	108	178	197	111
5月	19.3	19.7	0.4	25.5	25.6	0.1	13.8	14.6	0.8	155	252	162	187	184	98